

日本産酒類の輸出動向について

平成30年9月21日

内閣府 知的財産戦略推進事務局



Japan. Cool Japan.



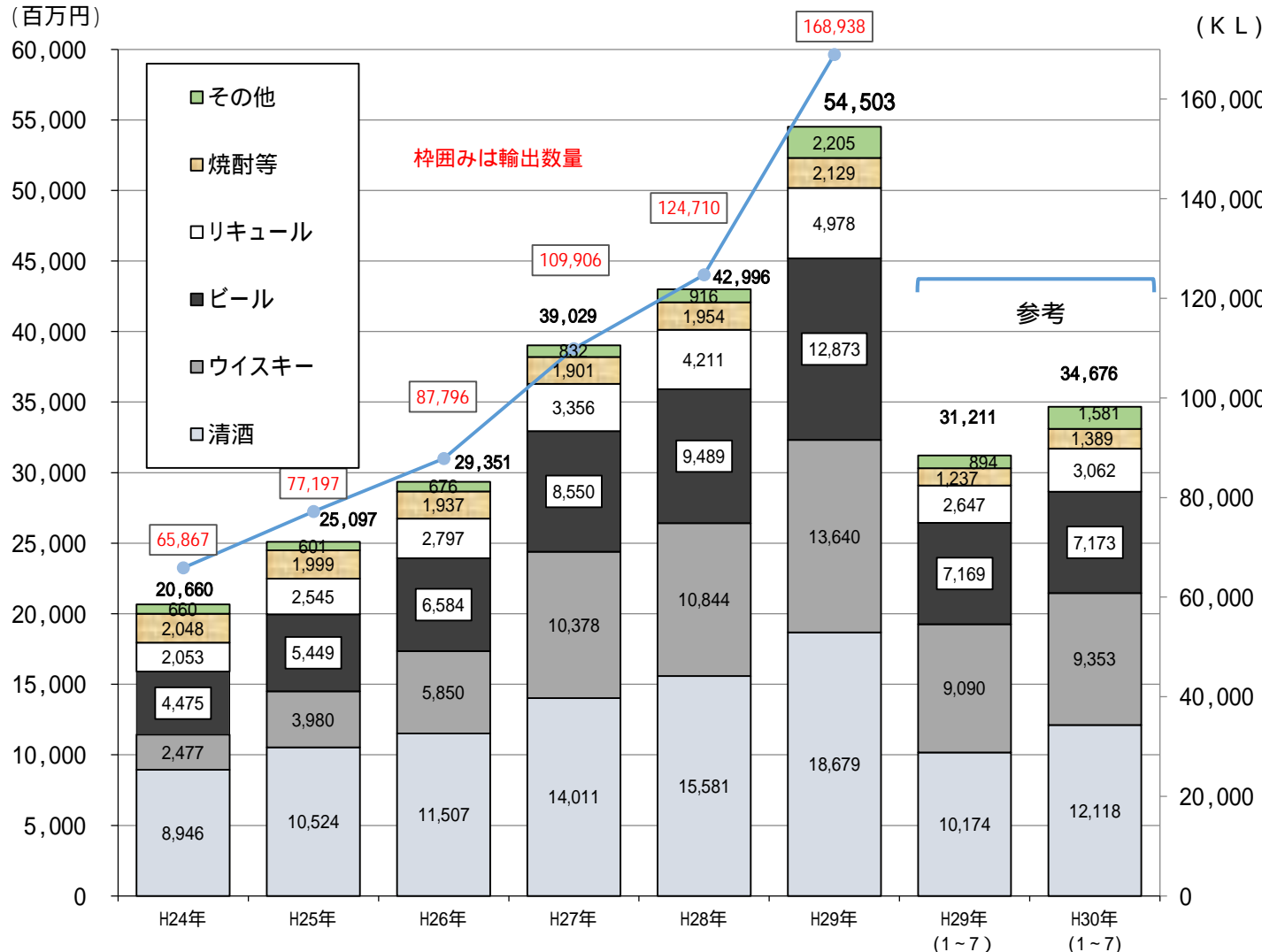
Japan. "Kampai" to the world.
Sake & Shochu

最近の日本産酒類の輸出動向について



平成29年の輸出金額は約545億円(対前年比126.8%)となり、6年連続で過去最高を記録。

平成30年7月までの輸出金額(速報値)は約347億円(対前年同期比111.1%)となり、順調に推移している。



(KL) 輸出金額額上位10か国 (単位:百万円)

国名	H29	対前年比
アメリカ合衆国	12,015	117.7%
大韓民国	10,757	142.3%
台湾	5,308	114.5%
香港	4,795	111.7%
中華人民共和国	4,379	162.6%
フランス	3,226	123.2%
シンガポール	2,768	100.8%
オランダ	2,348	157.2%
オーストラリア	1,899	131.8%
英国	1,601	277.8%

輸出数量上位10か国 (単位:KL)

国名	H29	対前年比
大韓民国	93,102	154.2%
台湾	23,444	115.0%
アメリカ合衆国	13,740	109.0%
オーストラリア	7,151	135.6%
中華人民共和国	6,569	151.3%
香港	5,641	104.6%
シンガポール	4,588	110.2%
フランス	2,132	129.9%
ロシア	1,803	120.1%
カナダ	1,711	124.2%

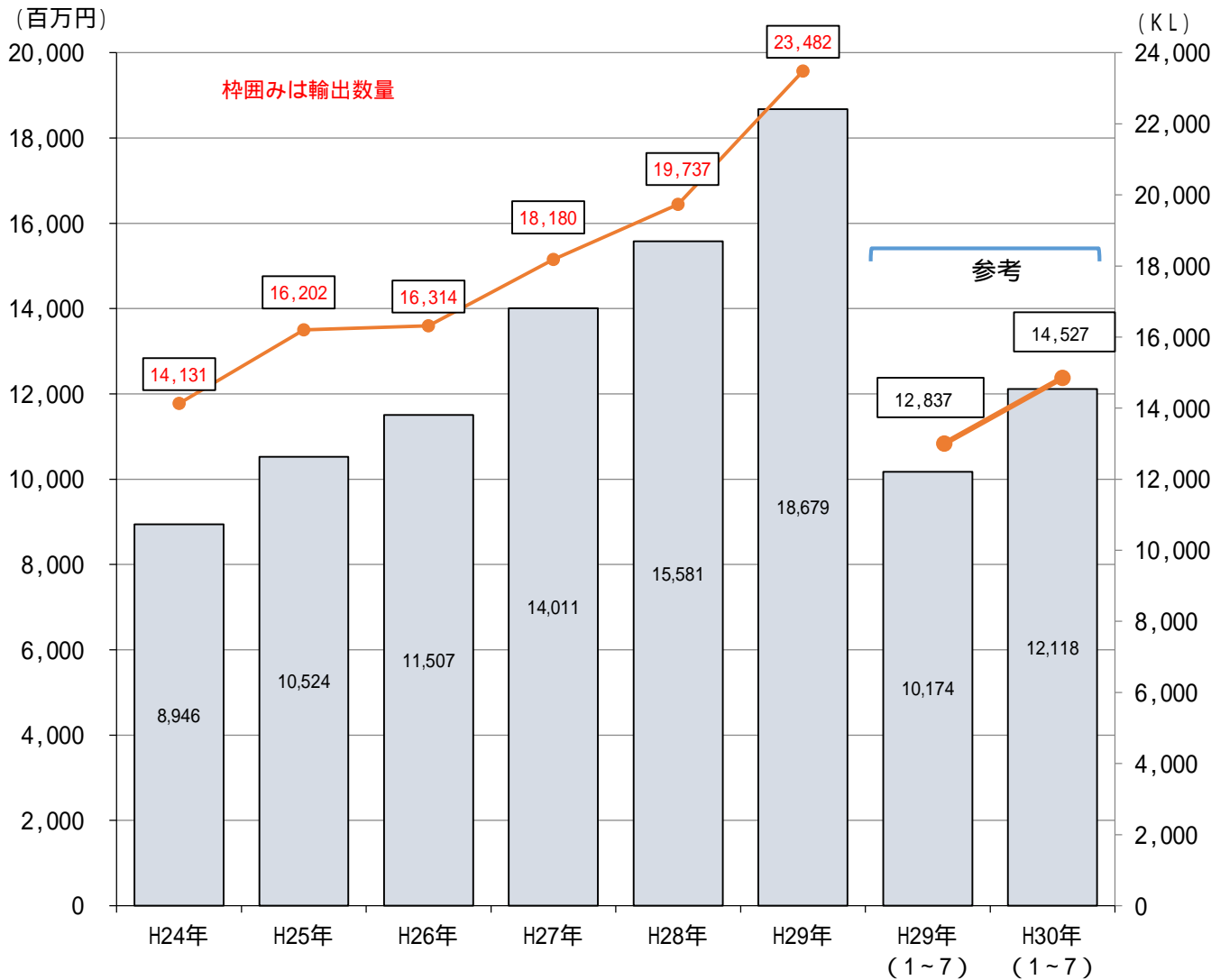
出典:財務省貿易統計

最近の清酒の輸出動向について



平成29年の清酒の輸出金額は約187億円(対前年比119.9%)、輸出数量は約23,482kl(一升瓶換算で約1,300万本、対前年比119.0%)となり、共に8年連続で過去最高を記録。

平成30年7月までの輸出金額(速報値)は約121億円(対前年同期比119.1%)となり、順調に推移している。



H29上位10カ国(地域)輸出金額 (単位: 百万円)

国名	H29	対前年比
アメリカ合衆国	6,039	116.2%
香港	2,799	106.4%
中華人民共和国	2,660	183.5%
大韓民国	1,864	119.3%
台湾	948	101.9%
シンガポール	691	115.1%
カナダ	486	127.6%
オーストラリア	396	109.4%
英国	348	107.7%
ベトナム	267	93.1%

H29上位10カ国(地域)輸出数量 (単位: KL)

国名	H29	対前年比
アメリカ合衆国	5,780	113.2%
大韓民国	4,798	129.8%
中華人民共和国	3,341	174.9%
台湾	1,985	94.7%
香港	1,807	96.3%
カナダ	711	123.3%
シンガポール	530	104.1%
タイ	472	102.4%
オーストラリア	444	108.6%
英国	388	122.5%



日本酒・焼酎

酒類の新たなカテゴリーとして認知が広がっており、海外の消費者の関心が高まっている

インターナショナル・ワイン・チャレンジ(IWC)

IWCは世界最大級のワインの品評会(ロンドン)。2006年に日本酒部門が創設され、2018年の日本酒部門には400社超が出展

ロサンゼルス・インターナショナル・スピリッツ・コンペティション(LAISC)

LAISCは米国トップクラスの蒸留酒の品評会。2013年に焼酎部門が創設

SALON DU SAKE

フランスの日本酒専門家が2013年に立ち上げたイベント(パリ)。日本酒のテイastingやビジネスマッチングなど実施。2017年は350超の日本酒銘柄を紹介し、4000人超が来場

KURA MASTER

フランス初の日本酒品評会で2017年から開催(パリ)。パリの最高級ホテルのシェフ・ソムリエを委員長とするフランス人のソムリエやレストラン関係者等を中心とした審査員が、日本酒とフランス料理のマッチングの観点から評価



ウイスキー、ワイン

海外の権威ある品評会での受賞等、品質への評価が高まっている

インターナショナル・スピリッツ・チャレンジ(ISC)

ウイスキー、ブランデー等の世界的な酒類品評会(ロンドン)。日本産のウイスキーが最高賞や金賞を受賞

インターナショナル・ワイン・チャレンジ(IWC)、デキャンタ・ワールド・ワイン・アワード(DWWA)

いずれも国際的なワインの品評会(ロンドン)。日本のワインがプラチナ賞や金賞を受賞

著名な酒類評論家の評価

国際的に著名なワインやウイスキーの評論家が、その著書等において高得点を付けるものが現れている。



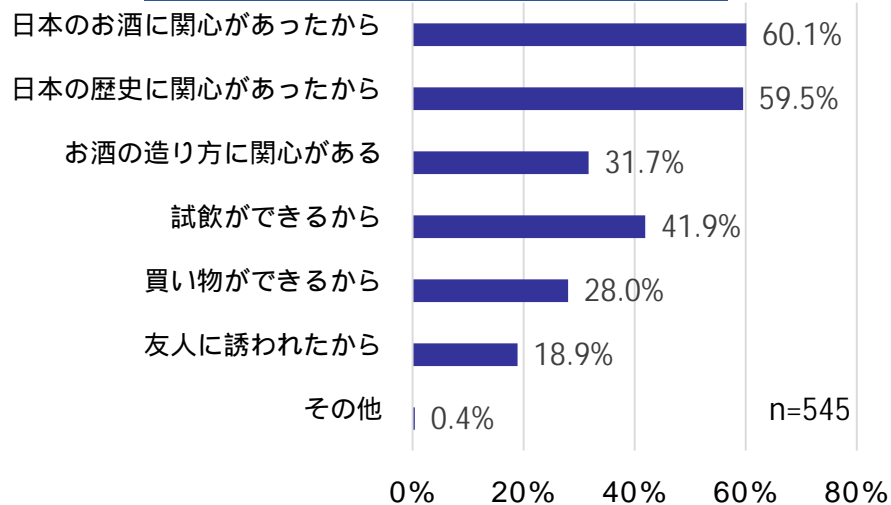
訪日外国人の日本産酒類の評価について

2017年の訪日外国人数は2,869万人(JNTO)。

観光庁が訪日外国人に実施したアンケート調査の結果からは、次のような日本産酒類に対する評価を読み取ることができる。

- 醸造所、ワイナリーを見学した訪日外国人は、日本産酒類そのものに関心が高いだけでなく、日本の歴史や醸造方法等への関心も高い。
- 日本滞在中にお土産としてお酒を購入した訪日外国人について、購入理由は、「味」の割合が最も高く、次いで「パッケージ」。一方で、「商品、ブランド名」の割合は相対的に低い。

醸造所、ワイナリー等への訪問動機



日本産酒類の購入動機

